



まちづくり方針とりまとめ 新大阪駅周辺地域の再生に 世界で活躍する人材育成 定員拡充を検討 グローバル塾

—加治木府議の9月定例会質問より



▲一般質問をする加治木府議

加治木一彦府議は10月8日の府議会本会議で新大阪駅周辺地域の再生などについて一般質問をしました。また、10月11日の教育常任委員会で外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語支援教育や農業高校の特色ある取り組みなどについて質疑をしました。概要は以下の通りです。

【一般質問より】

新大阪駅を中心とする地域は国や大阪府・市、UR都市機構などが協議会をつくり、今後のまちづくりについて検討しています。9月に開かれた協議会で「アクセスの良さを生かし、グローバル企業が拠点を置く環境整備」「淀川の貴重な環境を生かした舟運や高質な滞在機能」などの意見が出されました。今年度中に骨格をまとめ、民間の創意工夫を生かした都市開発プロジェクトの機運醸成に努める、とのことでした。



▲上空から見た新大阪駅周辺地域

海外留学を目指す府内の高校生が対象の「おおさかグローバル塾」は英国の大学への短期留学などを通し、英語力やコミュニケーション能力の強化を目指すものです。「大阪の未来を担う若者がグローバルな人材として世界で活躍することは大阪が発展してくうえで大変重要」と答弁があり、定員の拡充を検討するとのことでした。



▲おおさかグローバル塾の前期成果発表会

【教育常任委員会の質疑より】

外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語支援教育に関連し、高校生の中退率や進学率などを問いました。府立高校に通う外国ルーツの生徒の場合、平成29年度調査で全国平均より中退率は低く進学率が高い、という結果が出ています。府はさらなる改善に向け、外部の支援団体と連携し取り組むべき課題、との認識を示しました。



▲外国にルーツを持つ中学生が集まった「多文化共生フォーラム」

府立農芸高校(堺市美原区)は平成30年度から3年間、国のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの指定を受けています。企業と連携し、生産方法にこだわった畜産物や作り手の思いが伝わる加工食品をブランド化して、その過程で特許取得について学ぶなど、農業に係る知的財産学習についても積極的に取り組んでいます。



▲シャインマスカットの保管方法の説明を受ける(府立農芸高校)

大阪府議会ホームページ

▶ http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html



お知らせ▶



「大阪府議会議員 かじき一彦」

Facebookページにて、議員活動の情報発信をしております。当該ページに「いいね!」を押していただき、ぜひご覧ください。